

赤十字国際ニュース

2020年 第16号 2020年4月22日
(通巻 第1373号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3437-0785

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■ ネパール地震から5年 ～被災者を支える赤十字の仲間～

皆さんは5年前の4月、ネパールで大きな地震があったことを覚えていらっしゃるでしょうか。2015年4月25日、首都カトマンズから北西に77km付近を震源とするマグニチュード7.8



地震直後のネパール赤十字社の救援活動
©IFRC

と推定される大地震が発生しました。死者8,856人、全半壊した家屋は約89万戸、約560万人が被災したと報告されています。(数字は、国際赤十字・赤新月社連盟「以下、連盟」発表)。

日本赤十字社(以下、日赤)は、皆さまから温かいご支援、ご寄付をいただき、発災直後から、ネパール赤十字社(以下、ネパール赤)と協力し、保健医療チームを派遣する等緊急救援活動を実施。救援期を過ぎた復興期(4年間の復興の歩みは[こちらから!](#))に入ってから、もっとも甚大な被害を受けた郡のひとつであるシンドパルチョーク郡で、被災者の生活再建や村の復興を支えてきました。

ネパール地震救援・復興支援事業の詳細は[こちらへ!](#)

2020年4月15日現在、住宅1,652戸、トイレ1,514カ所、給水設備20カ所、灌漑設備8カ所、診療所14棟の再建が完了しています!

耐震建築や衛生的な生活環境づくりの大切さについても、被災者に啓発活動を行ってきました。

震災の前より安全で、よりよい生活環境を整えることを目標に実施してきた5年間の復興支援事業。それを推し進めたのは、逆境にあってもたくましく生きる被災した住民たちの力とともに、ネパール赤と日赤の現地スタッフが、根気強く活動を支えてきた日々の積み重ねがありました。日赤では、現地スタッフ計10人、そして、ネパール赤からは150人以上の職員が復興支援活動を支えてきました。今号では、その中から職員3人の声をご紹介します。と思います。

■ 「テントの中が事務所だったあの日から」 プラウエシュ・ネオバネ



2016年からはネパール赤職員として、現在は日赤職員として活躍するプラウエシュさん(右)

国際ニュース読者の皆さん、ナマステ!(こんにちは!) 私は、シンドパルチョーク郡事務所の復興支援計画作りや活動進捗のモニタリングを担当する職員としてネパール赤に入社しました。当時、郡事務所は地震で破損していて、仕事はフットサルコートに建てたテントの中。そこから復興計画を策定するために、郡事務所、ネパール赤本社、日赤と何度も計画会議を重ねたことを覚えています。

これまで一番嬉しかったのは、最初はそっけなかった被災地の住民たちが私たちを受け入れてくれたことです。人道支援団体の一員として、被災者が笑顔を取り戻す仕事の一端を担えることに大きなやりがいを感じた時でした。2019年11月からは、

日赤職員となり、復興支援事業の完了に向けて、最後のひと押しをしています。このような活動ができたのも、赤十字をご支援くださる皆さまのおかげです。赤十字職員として、そしてネパール人として心から感謝します。

■ 「山岳地の診療所再建のため、歩いて回りました」 ビケシュ・マハラ



最も早く始まり、すべての工事が終わるまで3年を要した診療所再建を担当したビケシュさん（中央）

私はジュニアエンジニアとして、14カ所の診療所の再建工事の進捗や品質管理業務を担当しました。車両の通行もままならない山岳地に散らばる診療所をひとつひとつ訪ねてモニタリングするのは大変なことです。最初のうちは、バイクもなく徒歩で回っていました。ひとたび工事が始まると、労働者が来ない、同じ間違いを繰り返すなどは日常茶飯事。雨期の間は工事が完全に止まってしまうため、計画はどんどん遅れていきました。困った時はネパール赤と日赤の合同チームに相談したり、一緒に診療所を訪問したりして、解決策を探ってきました。こんなチ



再建された診療所は産院としての役割も担う

ームワークに私は助けられ、現場での仕事に幸せを感じます。村人も、診療所が再建されて喜んでいて、日赤の支援にとっても感謝しています。

■ 「再建するのは耐震性の高い家！」 テック・デュンガナ

日本の皆さん、こんにちは！皆さまが寄せてくださったご支援で、現在なんと1,652世帯の住宅が再建されました。私はエンジニアとして、その住宅再建を含む建設案件のすべてを担当して



ネパール赤職員の指導もテックさん（右）の重要な業務のひとつ

います。被災した村人は、赤十字の支援や指導を通じて、煩雑な手続きを済ませ、耐震性の高い家を再建できるようになりました。私は、自分の知識や経験を最大限に活かすことで、被災者が立ち直っていく手助けができることに喜びを感じます。その反面、政策が頻繁に変わったり、政府からの承認が中々下りず、どんどん遅れていく計画をどうやって遂行していくかは、大きなチャレンジでした。ですが、人類に国境はありません。ある世界の人、別の世界の人を助けることができます。復興支援を通じて、私はそのことを学びました。

現在、世界中で感染者が増え続ける新型コロナウイルスの影響はネパールでも広がっており、ネパール政府は外出禁止令を4月27日まで延期しました（4月15日現在）。ネパール赤十字社は、ロックダウンという難しい状況にありながら、全国に広がるボランティアのネットワークを活かして、救急搬送や電話相談サービス、啓発活動、物資の配布等の支援を実施しています。地震復興支援事業は、完了まであとひと息というところで活動を見合わせていますが、一日も早い再開に向けて日赤とも緊密に連携し、準備を進めています。

新型コロナウイルスの3つの顔を知っていますか？
～負のスパイラルを断ち切るために～